

# kishibe route

【きしべの路】

崖線発見



国分寺崖線に沿って残る豊かなみどりや水辺の風景をたどりながら、かつての暮らしと文化を訪ね歩く路です。

マップの使い方  
この道を地図上に詳しく表示する。周辺をみながらルートに沿って進むことができます。

## 成城五丁目猪股庭園

(財)労働行政研究所理事長を務めた故猪股猛氏が昭和42年に建てた武家屋敷風の邸宅です。近代数寄屋造りの第一人者で、文化勲章受賞者の故古田五十八氏が設計しました。



## 喜多見不動堂

明治10年に多摩川に流れつたお不動様を祭っています。冬至の日には、粥を供養して福を招き災いを防ぐ星祭りが行われます。不動の滝、湧水があります。

## 神明の森 みつ池

23区では珍しい自生のゲンジボタルをはじめ、クワガタ、カナブン、コゲラなどたくさんの動物やハンノキやセキショウなどの植物が見られます。自然保護のため開放は年数回の観察会の際に限られていますが、周囲で鳥の声を聞くだけでも、豊かな森の自然が感じられます。

## きたみふれあい広場

小田急線の電車車庫の上にある人工地盤の公園です。地上10mの高さにあるため見晴らしが良く、国分寺崖線の緑の帯が一望できます。



## 次大夫堀公園民家園

かつて喜多見から國本界隈の農地を潤した六郷用水の大事業を成し遂げた、旧今川家の家臣の小泉次大夫からその名が付けられたこの公園は、昔ながらの小川や自然を復元した公園です。用水や田圃も再現され、地元の小学生により、田植えや稲刈りの体験学習が行われています。

## 永安寺

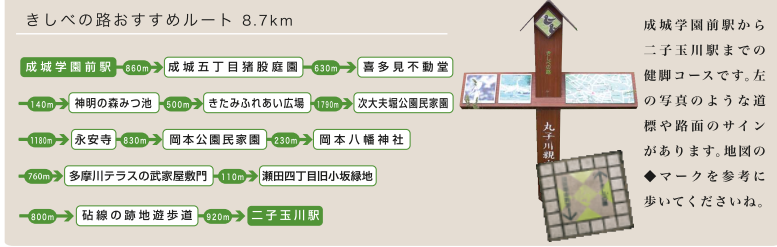
山門を入ると境内には樹齢100年といわれる大イチョウがあります。世田谷で最初の図書館を開設し、数々の著書を残した石井至毅のお墓もここにあります。



## 岡本公園民家園

復元されたかやぶきの民家は、18世紀末に建てられた旧長崎家の母屋を、6代目孫兵衛が増改築したものといわれています。年代物ながら手が行き届いている民家園は、国分寺崖線の雑木林に溶け込み、心安らぐ雰囲気のある場所です。民家園では四季折々の年中行事が再現され、お茶会や句会など、広く区民に開放されています。

## きしべの路おすすめルート 8.7km



## 岡本八幡神社

江戸時代初期に建てられたのではといわれていますが、その起源は定かではありません。本堂に向かってまっすくのびる勾配がきつい48段の石段があり、脇に迂回するように作られた、ゆるやかな坂は特に「おんな坂」と呼ばれています。

## 静嘉堂文庫

田三益財閥の故岩崎翁之助・小弥太氏によって収集された膨大な文化財の収蔵庫です。相澤20万冊の古典籍や「慶應天目茶碗」などの国宝、重要文化財を含む5000点の古美術品が収蔵されています。\*静嘉堂文庫美術館の展示ギャラリーは、東京丸の内明治生命館1階に移転しました。



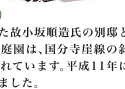
## 多摩川テラスの武家屋敷門

多摩川テラスの一角に移築された武家屋敷門。田圃山麓・池田家の筆頭家老の家ものとされます。間122m、奥行き8.5m、切妻造りで瓦ぶきの立派な門です。



## 瀬田四丁目目小坂緑地(旧小坂家住宅)

信濃銀行取締役で後に貴族院議員を務めた故小坂順造氏の別邸として、昭和12年に上棟。区が用地を取得し、庭園は、国分寺崖線の斜面と湧水の流れを活かした散歩道が設けられています。平成11年に建物や門などが区の有形文化財に指定されました。



## 砧線の跡地遊歩道

田原急傾斜の跡地を利用した歩道は、玉電が撤去されたタイルや砧線中継地駅跡の碑があり、歴史を感じることができます。



## 成城三丁目緑地

ここにはこんこんと湧き出る湧水があります。また崖線の地層も一部で見ることができ、かつての国分寺崖線の自然景観がそのままに残っています。この緑地では、近隣住民やボランティア、隣接する小学校の児童、世田谷トラストまちづくり、世田谷区など、多くの人たちが関わりあって、「都市の里山」をテーマに、みどりの保全活動が進められています。

## 富士見橋(成城)

切り通しがあるため、暗れた目にはその名とおり富士山を真正面に見ることが出来ます。平成17年に不動橋とともに新しい橋になり、また、国土交通省の「関東の富士見百景」に選定されました。



# setagaya gaisen map

崖線発見

# 国分寺崖線ってなあに？

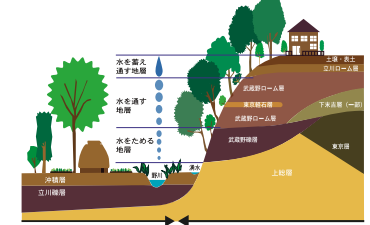
こんな自然豊かな風景が、わたしたちの住む世田谷にあるって知ってましたか？四季折々の水と緑が織りなす自然風景の生命線、それが国分寺崖線です。崖線のこと、ちょっと詳しく知るための豆知識をご紹介します！

私たちの住む世田谷区は、みどり豊かな住宅都市として、かけがえのないみどりを大切にしてきました。みどりは、そこに住む人々に潤いと安らぎを与えてくれるばかりではなく、環境や安全のために欠かせない存在でもあります。また、多くの生きものにとって重要な生息空間でもあります。区内には、大きな自然の営みと歴史の流れを肌で感じ

ることができる場所があります。それは国分寺崖線と呼ばれる「崖の連なり」です。多摩川が10万年以上の歳月をかけて武蔵野台地を削り取ってできたこの段丘とその周辺に残る樹林や湧水などの自然環境は、まとまった緑が多く残る「みどりの連続性が高い地域」として世田谷区の「みどりの生命線」と言われる貴重なものになっています。

## 水の湧き出る豊かな台地

世田谷区内にある湧水は約80か所。そのうちの8割が崖線沿いにあります。崖線斜面の地層によってもたらされたその豊かな水辺空間では、ハンノキをはじめ湿生植物が群落をつくり、いろいろな生きものすみかとなっています。



## みどりの連なる都市のオアシス

斜面地やその周辺には樹木が茂り森の緑を呈しています。それらの樹木は、元々、里山の雑木林として利用されてきたコナラ、クヌギ、イヌシデ等の落葉広葉樹が中心であり、新緑や黄葉等の季節の変化を感じる武蔵野らしい緑地帯となっています。また、松林やスダジイ等の常緑樹が場所ごとに混在し、多様な樹木から構成されています。

## 台地を感じる見晴らし

国分寺崖線の斜面にそって、いくつもの坂があり、長年わたって親しまれてきた坂には名前がつけられています。また、多くの坂が南西に面しているため、冬の時期には坂の上から富士山と多摩川の壮大な眺めが得られる場所もたくさんあります。

## 国分寺崖線の位置

国分寺崖線の「崖の連なり」は、立川市から国分寺市などを經由し、世田谷区から大田区へと延長約30kmにわたっています。世田谷区内では南西部に位置し、多摩川と野川に沿って約8km続き、高さ10〜20mの斜面からなります。



## まちの歴史資産

国分寺崖線に沿って、たくさんのお墓があります。先史時代からの歴史を有するとともに、江戸時代には大山道、徳道、登戸道といった古道ができ、その沿道には歴史を感じさせる祠や神社等があります。明治時代以降は、浄水場や河川の堤防の整備などが行われ、近代化遺産となっています。また、等々力渓谷は平成11年に東京都の名勝指定を受け、保存管理計画のもとに整備を進めています。

## 先進的な住宅地づくり

江戸時代から農村としての歴史がある場所ですが、鉄道の開通とともに住宅地へと変わってきました。大正から昭和初期にかけては、財界人等の別荘が岡本から上野毛近辺にいくつも建てられました。その一部は、西洋の建築様式や技術の影響を受けた近代建築と呼ばれ、特徴のある街並みをつくり出しています。また、玉川地域では玉川全圃耕地整理事業により整った住宅街が生まれ、成城では反面整理事業により整然とした街並みが形成されました。このような時代の変遷をへて、現在もみどりの多い住宅街として発展を続けています。